

2027年国際園芸博覧会
サステナビリティ実施計画
(案)

2023年12月19日時点

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

目次

1	はじめに.....	1
1.1	目的.....	1
1.2	マイルストーンと成果物.....	2
1.3	前提条件と制約条件.....	4
1.3.1	前提条件.....	4
1.3.2	制約条件.....	5
1.4	リスクアセスメント.....	6
2	ガバナンスとステークホルダーのマネジメント.....	10
2.1	経営の概要.....	10
2.2	ステークホルダー分析.....	11
3	実施スケジュール.....	11
3.1	アクション.....	12
3.2	RACI マトリクス.....	15
3.3	ガントチャート.....	19
4	予算.....	23
5	進捗管理と評価.....	24
5.1	成果の進捗管理.....	26

1 はじめに

1.1 目的

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（以下「協会」という。）は、2027年国際園芸博覧会（以下「本園芸博」という。）の開催に必要な事業及びその方針を示した「2027年国際園芸博覧会 基本計画（以下「基本計画」という。）」を2023年1月に策定している。この基本計画では、本園芸博のテーマを「幸せを創る明日の風景」としており、本テーマには、「日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会に向けて、一人ひとりが心に『幸福感を深める』ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景である」という思いが込められている。

本園芸博のテーマをサステナビリティの面から実現するため、協会では、取組の方向性を示す「サステナビリティ戦略」を策定した。サステナビリティは、国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）が承認する国際園芸博覧会の開催・運営において重要視されている。本サステナビリティ実施計画（以下「実施計画」という。）には、基本計画を踏まえたサステナビリティ戦略を実施するための具体的なアクションやそのアクションに関わるステークホルダー等を記載している。また、サステナビリティの目標達成度を評価する重要業績評価指標（以下「KPI」という。）を記載し、開催の準備、開催・運営、レガシーの各段階において、毎年度、進捗管理を行うこととしている。

実施計画の対象期間は、2024年3月の実施計画の策定以降、本園芸博の開催期間を含む2028年度までとする。また、実施計画に記載されている取組の実施責任者は、協会の事務総長・代表理事とする。

1.2 マイルストーンと成果物

マイルストーンとは、本園芸博の開催に向けた、計画策定、工事、事業などの中間目標のことであり、スケジュールの進捗管理上、設定するものである。

本園芸博におけるマイルストーンと成果物を以下の通り設定する。

ID	時期	時期の考え方	マイルストーンと成果物
m-1	2023年1月	策定時	2027年国際園芸博覧会 基本計画の策定
m-2	2024年1月	策定時	持続可能性に配慮した調達コードの策定（日本語版の公表）
m-3	2024年3月	AIPH 要求事項	サステナビリティ戦略、サステナビリティ実施計画の策定
m-4	2024年度	工事着工時	環境影響評価手続きの完了
m-5	2024年度	工事着工時	会場整備工事の開始
m-6	2025年3月	AIPH 要求事項	サステナビリティ教育計画、サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画の策定
m-7	2025年度	チケット販売時	チケットの販売
m-8	2025年度	開催2年度前	参加者（外国政府・国際機関等）・出展者等の確保
m-9	2026年3月	開催1年前	1年前イベントの開催
m-10	2026年9月	AIPH 要求事項	プレイベント・サステナビリティレポートの報告
m-11	2026年9月	AIPH 要求事項	イベント・サステナビリティマネジメントシステムの構築
m-12	2027年3月	開会	本園芸博の開会
m-13	2027年9月	閉会	本園芸博の閉会、仮設建築物の撤去開始
m-14	2027年12月	AIPH 要求事項	ポストイベント・サステナビリティレポートの報告
m-15	2030年9月	AIPH 要求事項	サステナビリティ及びレガシーレポートの報告

次に本園芸博における品質基準と責任者を以下に示す。品質基準とは、各マイルストーンと成果物の品質を担保するための基準であり、また責任者とは、各内容の責任を負う者のことである。

ID	マイルストーンと成果物	品質基準	責任者
m-1	2027年国際園芸博覧会 基本計画の策定	・ AIPH・BIE 規則 ・ 過去の国際園芸博覧会の事例	協会
m-2	持続可能性に配慮した調達コード（日本語版）の策定	・ 国際法、国内外の法令等 ・ 日本国内で策定済の大規模イベントの調達コード（東京オリンピック・パラリンピック競技大会、大阪・関西万博）	
m-3	サステナビリティ戦略、実施計画の策定	・ AIPH 附属書 X ・ AIPH ガイダンス ・ AIPH チェックリスト	
m-4	環境影響評価手続きの完了	・ 横浜市環境影響評価条例	
m-5	会場整備工事の開始	・ AIPH 規則 ・ 日本国の法令等 ・ 調達コード	
m-6	サステナビリティ教育計画、コミュニケーション・エンゲージメント計画の策定	・ AIPH 附属書 X ・ AIPH ガイダンス ・ AIPH チェックリスト	
m-7	チケットの販売	・ AIPH 規則 ・ 過去の国際園芸博覧会の事例等	
m-8	参加者（外国政府・国際機関等）・出展者等の確保	・ AIPH 規則	
m-9	1年前イベントの開催	・ AIPH 規則 ・ 調達コード	
m-10	プレイベント・サステナビリティレポートの報告	・ AIPH 附属書 X	
m-11	イベント・サステナビリティマネジメントシステムの構築	・ AIPH 附属書 X ・ ISO20121	
m-12	本園芸博の開会	・ AIPH 規則 ・ 調達コード	
m-13	本園芸博の閉会、仮設建築物の撤去開始	・ AIPH 規則 ・ 日本国の法令等 ・ 調達コード	
m-14	ポストイベント・サステナビリティレポートの報告	・ AIPH 附属書 V・X	
m-15	サステナビリティ及びレガシーレポートの報告	・ AIPH 附属書 V・X	

1.3 前提条件と制約条件

1.3.1 前提条件

前提条件とは、本園芸博のマイルストーンと成果物の達成において、前提となる条件を指す。一般的には、リソースの仮定（必要な資源が確保されているか）、コストの仮定（費用が当初の想定通りか）、スケジュールの仮定（スケジュールは予定通りか）、品質・仕様の前提（求められる品質・仕様を満たしているか）、技術の前提（必要な技術を用いたか）、場所・環境の想定（適切な場所や環境が確保・提供されたか）などが挙げられる。本園芸博における前提条件を以下に一覧で示す。

ID	マイルストーンと成果物	前提条件
m-1	2027年国際園芸博覧会 基本計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・協会の理事会で承認が得られる ・関係者と調整され、了承されている ・十分な人員が確保されている
m-2	持続可能性に配慮した調達コード（日本語版）の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整され、了承されている ・調達開始までに策定されている
m-3	サステナビリティ戦略、実施計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整され、了承されている ・AIPH が設定する期限内に策定されている
m-4	環境影響評価手続きの完了	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係者等に周知され、理解されている ・横浜市環境影響評価条例に基づく手続きが、工事開始前までに適切に終了している
m-5	会場整備工事の開始	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係者等に周知され、理解されている ・適切に工事契約が締結されている ・設計に基づき、適切に施工されている ・必要な予算が確保されている
m-6	サステナビリティ教育計画、コミュニケーション・エンゲージメント計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整され、了承されている ・AIPH が設定する期限内に策定されている ・サステナビリティ戦略・実施計画が策定されている
m-7	チケットの販売	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整され、了承されている ・チケットの販売が開始されている
m-8	参加者（外国政府・国際機関等）・出展者等の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者に周知され、理解されている ・参加者や出展者等が確保されている
m-9	1年前イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者に周知され、理解されている ・イベントの準備が完了している ・必要な予算が確保されている
m-10	プレイベント・サステナビリティレポートの報告	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整され、了承されている ・AIPH が設定する期限内に報告されている
m-11	イベント・サステナビリティマネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整され、了承されている ・期限内に構築し、運用を開始できている
m-12	本園芸博の開会	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者に周知され、理解されている ・本園芸博に向けた機運が高まっている ・本園芸博の準備が完了している ・本園芸博の適切な運営体制が整っている ・必要な予算が確保されている ・十分な人員が確保されている
m-13	本園芸博の閉会、仮設建築物の撤去開始	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな問題等がなく、本園芸博が閉会している ・仮設建築物の撤去の契約・準備が整っている ・必要な予算が確保されている
m-14	ポストイベント・サステナビリティレポートの報告	<ul style="list-style-type: none"> ・AIPH が設定する期限内に報告されている
m-15	サステナビリティ及びレガシーレポートの報告	<ul style="list-style-type: none"> ・AIPH が設定する期限内に報告されている

1.3.2 制約条件

制約条件とは、本園芸博のマイルストーンと成果物の達成において、制約となる条件を指す。実行に影響を及ぼすもの、守るべきもの、主として協会のみでは変更できない条件等について、業務範囲、時間・スケジュール、コスト等の観点から制約条件を規定する。

本園芸博における制約条件を以下に一覧で示す。

ID	マイルストーンと成果物	制約条件
m-1	2027年国際園芸博覧会 基本計画の策定	・AIPH・BIE が設定する提出期日
m-2	持続可能性に配慮した調達コード（日本語版）の策定	・調達開始期日
m-3	サステナビリティ戦略、実施計画の策定	・AIPH が設定する提出期日
m-4	環境影響評価手続きの完了	・工事開始時期 ・横浜市環境影響評価条例が定める実施項目
m-5	会場整備工事の開始	・開催期日 ・会場整備予算
m-6	サステナビリティ教育計画、 コミュニケーション・エンゲージメント計画の策定	・AIPH が設定する提出期日
m-7	チケットの販売	・チケット販売体制の確保
m-8	参加者（外国政府・国際機関等）・出展者等の確保	・出展等の締切期日
m-9	1年前イベントの開催	・イベント開催日 ・イベント予算
m-10	プレイベント・サステナビリティレポートの報告	・AIPH が設定する提出期日
m-11	イベント・サステナビリティマネジメントシステムの構築	・ISO20121 の要求事項 ・ISO20121 の認証期日
m-12	本園芸博の開会	・開会日 ・博覧会の開催予算 ・協会の人員・ボランティア等の人数
m-13	本園芸博の閉会、仮設建築物の撤去開始	・閉会日 ・仮設建築物の撤去終了期日
m-14	ポストイベント・サステナビリティレポートの報告	・AIPH が設定する提出期日
m-15	サステナビリティ及びレガシーレポートの報告	・AIPH が設定する提出期日

1.4 リスクアセスメント

一般的にリスクとは、物事の実行にマイナスの影響を与える可能性のある、予期せぬ出来事や不確実な事象をいう。

以下の表では、マイルストーンと成果物に対して、マイナスの影響を与える可能性があるリスクを記載する。併せて、リスクによる本園芸博への影響、影響度合い、発生の可能性を記載する。

ID	マイルストーンと成果物	リスク	リスクによる影響	影響度合い	発生の可能性
m-1	2027年国際園芸博覧会基本計画の策定	策定済のため対象外	策定済のため対象外	策定済のため対象外	策定済のため対象外
m-2	持続可能性に配慮した調達コード(日本語版)の策定	サプライヤー及びサプライチェーン等による違反・通報が発生する	協会の信頼が低下することに加えて、出展が困難になる事業者が発生する	中	高
		市民やNPO・NGOからの批判等が発生する	協会の信頼が低下することに加えて、出展者・来場者が減少する	中	高
m-3	サステナビリティ戦略、実施計画の策定	AIPHが定める期限内に提出できない	サステナビリティの各種施策の実行が遅れ、効果が下がる	低	低
		AIPHからの承認が得られない	サステナビリティの各種施策の実行が遅れ、効果が下がる	低	低
m-4	環境影響評価手続きの完了	環境影響評価手続きの審査が長期化する	施工の開始が遅れ、本園芸博の開催に影響が出る可能性がある	中	低
		市民やNPO・NGOからの批判等が発生する	協会の信頼が低下することに加えて、出展者・来場者が減少する	中	低
m-5	会場整備工事の開始	施工による事故等が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	中
		施工による公害が発生する	協会の信頼が低下することに加えて、出展者・来場者が減少する	高	低
		施工による事故等が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	中
		期限内に施工が完了できない	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	中
m-6	サステナビリティ教育計画、コミュニケーション・エンゲージメント計画の策定	AIPHが定める期限内に提出ができない	サステナビリティの各種施策の実行が遅れ、効果が下がる	低	低
		AIPHからの承認が得られない	サステナビリティの各種施策の実行が遅れ、効果が下がる	低	低
m-7	チケットの販売	十分な数のチケット販売数が事前に確保できない	本園芸博の開催に影響が出る	中	中
m-8	参加者(外国政府・国際機関等)・出展者等の確保	十分な出展者等の数を確保できない	本園芸博の開催に影響が出る	中	中

ID	マイルストーンと成果物	リスク	リスクによる影響	影響度合い	発生の可能性
m-9	1年前イベントの開催	大規模自然災害が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	高
		感染症が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	中
m-10	プレイベント・サステナビリティレポートの報告	AIPHが定める期限内に提出ができない	サステナビリティの各種施策の実行が遅れ、効果が下がる	低	低
		AIPHからの承認が得られない	サステナビリティの各種施策の実行が遅れ、効果が下がる	低	低
m-11	イベント・サステナビリティマネジメントシステムの構築	開催までにマネジメントシステムを適切に運用できない	協会の信頼が低下する	低	低
		ISO20121の認証が取得できない	協会の信頼が低下する	低	低
m-12	本園芸博の開催	大規模自然災害が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	中
		感染症が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	高	中
		会場内での混雑が発生する	混雑により、博覧会の運営に影響が出て、来場者の満足度が下がる	中	高
		周辺環境に影響をきたす交通混雑が発生する	周辺地域で渋滞が発生し、地域住民から苦情等が来たり、来場者の満足度が下がる	高	高
		サイバー攻撃が発生する	本園芸博の開催が遅れ、最悪の場合は開催が困難となる	中	中
m-13	本園芸博の閉会、仮設建築物の撤去開始	施工業者等からの応札がない	仮設建築物の撤去やその後の関連工事等が遅れる	高	中
		施工による事故等が発生する	協会の信頼が低下し、補償等が必要になる可能性がある	高	中
		期限内に施工が完了できない	仮設建築物の撤去やその後の関連工事等が遅れる	高	中
m-14	ポストイベント・サステナビリティレポートの報告	AIPHが定める期限内に提出ができない	協会の信頼が低下する	低	低
		AIPHからの承認が得られない	協会の信頼が低下する	低	低
m-15	サステナビリティ及びレガシーレポートの報告	AIPHが定める期限内に提出ができない	協会の信頼が低下する	低	低
		AIPHからの承認が得られない	協会の信頼が低下する	低	低

リスクの影響度合いの定義

「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の観点から、本園芸博への影響度合いを「高」「中」「低」で評価し、各観点の中で最も大きい値を影響度合いとして設定する。

区分		高	中	低
定義		本園芸博が開催できない又は大幅な遅延が発生する	本園芸博は開催できるが、問題が起きる又は体制や取組、スケジュールの見直しが必要になる	本園芸博は開催でき、体制や取組、スケジュールの見直しは不要だが、準備・開催に一定程度影響する
判断基準	ヒト	人命が損なわれる	怪我や疾病が発生する	業務の非効率や不便が発生する
	モノ	本園芸博の開催に必要な会場の建設や植物等の調達が可能になる	本園芸博の開催に必要な会場の建設や植物等の調達に支障が出る	本園芸博における一部の物品の調達に支障が出る又は調整が必要となる
	カネ	リスクのコントロールのために、巨額の費用が発生し、全体予算内では対応ができない	リスクのコントロールのために計画範囲外の費用が発生する	リスクのコントロールのために計画範囲内の費用が発生する
	情報	イベント全体に対する信頼が大幅に低下し、出展者や来場者の参加キャンセルが発生する	イベント全体に対する信頼が低下するが、出展者や来場者との対話によって改善する余地がある	イベントの特定の項目、事象に対する信頼が低下するが、出展者や来場者との対話によって改善する余地がある

リスク発生の可能性の定義

過去に開催された大規模国際イベントでの発生状況に加えて、協会内の事情により発生する内部要因、外部セクターからの影響によって発生する外部要因から、「高」「中」「低」で評価する。

区分		高	中	低
定義		過去の大規模国際イベントで発生しており、本園芸博でも同様に発生する可能性が高い	過去の大規模国際イベントで発生したことはないが、本園芸博で発生する可能性が一定程度ある	過去の大規模国際イベントで発生したことがなく、本園芸博においても発生する可能性は低い
判断基準	内部 (協会内)	過去の大規模国際イベントでも発生しており、本園芸博においても同様に発生する要素が内部and/or外部に存在する	過去の大規模国際イベントでは発生していないが、本園芸博においても発生する要素が外部or内部に存在する	過去の大規模国際イベントでも発生したことがなく、本園芸博においても発生する要素が低い又ははない
	外部 (外部セクター)			

リスクの予防的措置

また、リスクの発生を回避するためには、事前に予防的措置を講じることが重要となる。そのため以下では、前掲したリスクについて、その影響を回避、抑制するための予防的措置、予防的措置の実施状況、予防的措置を実施する責任者についても記載する。

リスク	予防的措置	予防的措置の実施状況	責任者
サプライヤー及びサプライチェーン等による違反・通報が発生する	調達コードに関する広報の実施	実施	協会
市民やNPO・NGOからの批判等が発生する	説明会や市民やNPO・NGOとの意見交換等の実施	実施	
AIPHが定める期限内に提出できない	協会内での適切なマネジメントの実施	実施	
AIPHからの承認が得られない	協会内での適切なマネジメントの実施	実施	
環境影響評価手続きが完了できない	協会内での適切なマネジメントの実施	実施中	
施工業者等からの応札がない	早期から情報提供、適切な積算の実施	今後実施	
施工による公害が発生する	適切な工事管理の実施	今後実施	
施工による事故等が発生する	適切な工事管理の実施	今後実施	
期限内に施工が完了できない	適切な工事管理の実施	今後実施	
目標となるチケット販売数を期限内に確保できない	本園芸博の開催に向けた効果的なマーケティングの実施	実施中	
目標とする出展者の数を確保できない	本園芸博の出展者確保に向けた効果的な広報の実施	実施中	
大規模自然災害が発生する	災害対策マニュアルの策定	今後実施	
感染症が発生する	感染症対策の実施	今後実施	
開催までにマネジメントシステムを適切に運用できない	協会内での適切なマネジメントの実施	今後実施	
ISO20121の認証が取得できない	協会内での適切なマネジメントの実施	今後実施	
会場内での混雑が発生する	スムーズな人の移動を可能にする導線やオペレーションの設計・実施	実施中	
周辺環境に影響をきたす交通混雑が発生する	適切な交通マネジメントの実施	実施中	
サイバー攻撃が発生する	サイバーセキュリティー対策の実施	実施	

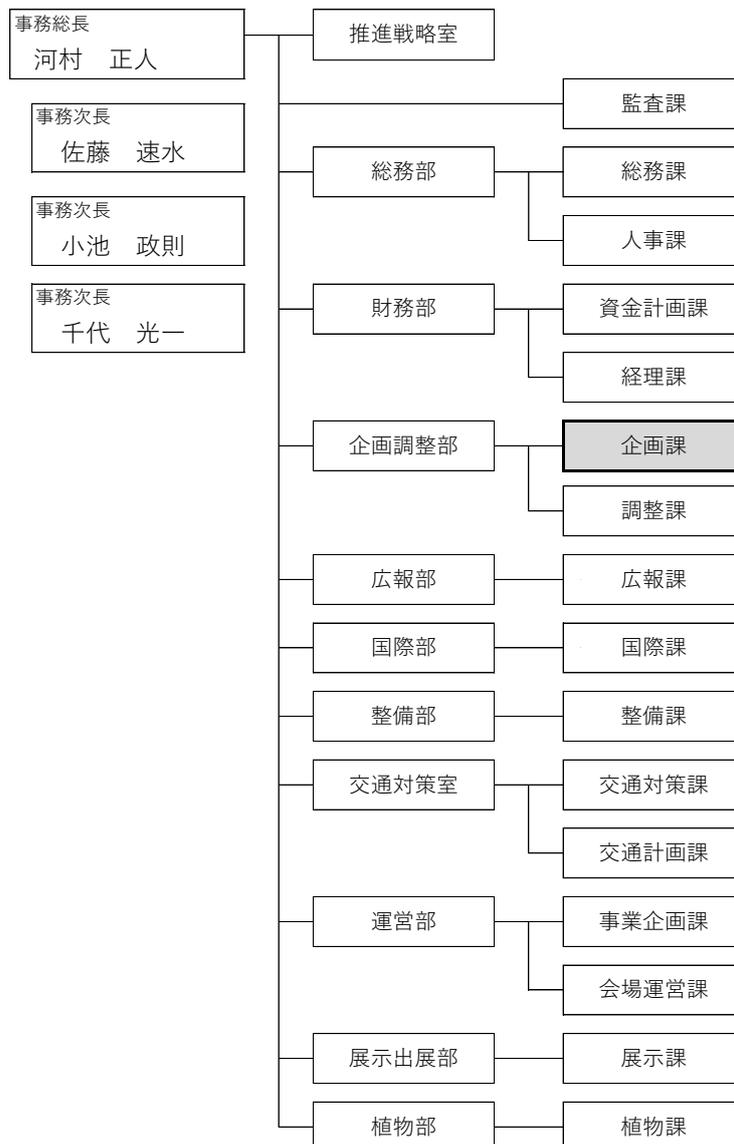
2 ガバナンスとステークホルダーのマネジメント

2.1 経営の概要

本園芸博を、2027年に開催することが2020年3月にAIPHから正式承認され、博覧会国際事務局（BIE）の認定に向けて国際博覧会に関する条約上の手続きを進めることが、2021年6月に閣議了解された。これを受けて、国・関係地方公共団体・民間が協力して、2021年11月に協会が設立された。協会の定款に掲げる目的は、「国際博覧会条約に基づく神奈川県横浜市における2027年国際園芸博覧会の準備及び開催運営等を行い、博覧会を成功させることをもって、国際連合の掲げる持続可能な開発目標の達成に貢献するとともに、国際的な園芸文化の普及、花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現、多様な主体の参画等により幸福感が深まる社会の創造に寄与すること」と記載している。

本園芸博のサステナビリティ関係業務は、企画調整部 企画課 サステナビリティ担当のとりまとめでの下、全部門がそれぞれの領域において対応する。

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 事務局組織図（2023年7月時点）



2.2 ステークホルダー分析

ステークホルダーとは、組織経営において、直接的又は間接的に影響を受ける利害関係者のことである。本園芸博の成功のためには、ステークホルダーとの適切なコミュニケーションにより、連携を深めることが必要である。

実施計画では、本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーとして、「来場者」、「出展者等」、「ボランティア」、「市民・地域社会」、「NPO・NGO」、「事業者」、「有識者等」、「政府・自治体」、「協会職員・運営スタッフ等」の9つを設定する。各ステークホルダーの本園芸博に対する立ち位置をAIPHが策定したステークホルダーの定義をもとに、現在の状況である「現状」と、理想的な状況である「理想」に整理する。

AIPHはステークホルダーの立ち位置を以下のように分類している。

立ち位置	立ち位置の定義
無認識 (Unaware)	本園芸博のサステナビリティの趣旨や、本園芸博の開催がもたらす潜在的な影響に気づいていない。
抵抗 (Resistant)	本園芸博のサステナビリティの趣旨を認識しているが、本園芸博の開催がもたらす様々な変化に対し抵抗感がある。
中立 (Neutral)	本園芸博のサステナビリティの趣旨を認識しているが、これに対して抵抗も支持もしていない。
支持 (Supportive)	本園芸博のサステナビリティの趣旨とその潜在的な影響を認識しており、本園芸博の開催がもたらす様々な変化を支持している。
先導 (Leading)	本園芸博のサステナビリティの趣旨を認識し、その達成のために積極的に活動している。

ステークホルダー分析の結果、各ステークホルダーの本園芸博に対する「現状」の立ち位置と「理想」の立ち位置は以下の通りである。分析の結果を踏まえ、今後もステークホルダーが「理想」の立ち位置で、本園芸博に協力していただけるように、各ステークホルダーと適切なコミュニケーションを図る。

ID	ステークホルダー	無認識	抵抗	中立	支持	先導
s-1	来場者	現状				理想
s-2	出展者等				現状	理想
s-3	ボランティア				現状	理想
s-4	市民・地域社会			現状		理想
s-5	NPO・NGO			現状		理想
s-6	事業者			現状		理想
s-7	有識者等				現状	理想
s-8	政府・自治体					現状 理想
s-9	協会職員・運営スタッフ等				現状	理想

3 実施スケジュール

3.1 アクション

サステナビリティ戦略では、AIPH が要求する 12 の分野について、本園芸博をサステナブルなイベントとするための目標を設定し、その達成度を客観的に判断するための KPI や取り組みを記載した。

ここは、サステナビリティ戦略で設定した各目標の実現のためのアクションを記載する。

目標	KPI	アクション ID	アクション
1 生物多様性			
生物多様性の保全	生物多様性の保全	1-1-1	生物多様性に配慮した会場計画の作成
		1-1-2	計画の実施
		1-1-3	維持・管理
2 水環境			
水消費量の削減	灌水消費量の削減	2-1-1	予定使用水量の試算
		2-1-2	節水施策の実施
		2-1-3	使用水量と削減水量の把握
3 脱炭素			
脱炭素化に向けた温室効果ガスの排出削減	温室効果ガスのスコープごとの排出量	3-1-1	温室効果ガスのスコープごとの排出量の試算
		3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施
		3-1-3	クレジットの購入によるカーボンニュートラル達成
4 エネルギー			
建築のパッシブデザイン導入	建築のパッシブデザイン導入	4-1-1	建築計画の策定
		4-1-2	工事の実施
		4-1-3	維持・管理
省エネ型の設備の導入	省エネ型の設備の導入	4-2-1	エネルギー使用予定量の試算と削減計画の策定
		4-2-2	エネルギー使用量削減施策の実施
		4-2-3	エネルギー使用量・削減量の測定・公表
再生可能エネルギーの最大限の活用	再生可能エネルギー電気の利用率	4-3-1	再生可能エネルギー電気導入計画の策定
		4-3-2	再生可能エネルギー電気の導入
5 公害対策			
周辺環境への影響の低減	工事に伴う周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさない	5-1-1	ガイドラインの策定・公表
		5-1-2	関係者への周知
		5-1-3	ガイドラインの運用・結果取りまとめの実施

目標	KPI	アクションID	アクション
6 廃棄物と解体			
将来公園施設を展示施設として利活用	将来公園施設を展示施設として利活用	6-1-1	将来公園施設を活用した展示施設設計
		6-1-2	将来公園施設を活用した展示施設整備
資源循環に配慮した仮設建築物整備	レンタル・リース品による仮設建築物整備	6-2-1	レンタル・リース品による仮設建築物設計
		6-2-2	レンタル・リース品による仮設建築物調達
		6-2-3	レンタル・リース品による仮設建築物整備
廃棄物のリサイクルの推進	コンクリート塊のリサイクル率	6-3-1	仮設の施設撤去時のコンクリート塊のリサイクル
7 建設			
土地区画整理事業や将来公園施設と連携した施設整備	土地区画整理事業や将来公園施設のインフラ活用率	7-1-1	土地区画整理事業や公園事業と連携したインフラ計画の策定
		7-1-2	土地区画整理事業や公園事業と連携したインフラの整備
生態系に配慮した植物の維持管理の推進	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討	7-2-1	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討
持続可能性に配慮した建設資材の調達	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	7-3-1	調達コードの検討
		7-3-2	調達コードの策定・公表
		7-3-3	調達コードの適切な運用
8 デザイン・計画			
設計配慮指針の策定	設計配慮指針の策定	8-1-1	ガイドラインの策定・公表
		8-1-2	工事の実施
		8-1-3	モニタリングの実施
9 交通・会場内移動			
公共交通等による会場アクセスの向上	公共交通等による会場アクセスの向上	9-1-1	輸送実施計画の策定
		9-1-2	シャトルバスの確保・施設等の整備
		9-1-3	シャトルバスの運行管理、駐車場運営
来場者が安全・快適に移動できる会場計画	来場者が安全・快適に移動できる動線計画の策定	9-2-1	動線計画の策定
		9-2-2	動線の整備
		9-2-3	動線計画の運用
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	ユニバーサルデザインガイドラインの策定	9-3-1	ガイドラインの策定・公表
		9-3-2	工事の実施
		9-3-3	モニタリングの実施

目標	KPI	アクションID	アクション
10 海外からの参加者（外国政府・国際機関等）			
海外からの参加者 （公式参加者） に向けた情報提供	海外からの参加者（公式参加者）に向けた 情報提供	10-1-1	公式参加者向ウェブページの開設および情報の掲載（英語版）
		10-1-2	各種規則・ガイドライン等のコンテンツの作成と定期的な更新
		10-1-3	関係者への周知
11 サステナブルなイベント運営			
食品ロスの削減の推進	食品ロスの削減の推進 ※一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店	11-1-1	ガイドラインの策定・公表
		11-1-2	関係者への周知
		11-1-3	計画の運用・結果取りまとめ
テーマに沿った、音・光のコントロール	テーマに沿った、音・光のコントロール ※一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店、催事参加	11-2-1	ガイドラインの策定・公表
		11-2-2	関係者への周知
		11-2-3	計画の運用・結果取りまとめ
ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	11-3-1	ESMS の導入に向けた検討
		11-3-2	ISO20121 の審査機関からの認証取得
		11-3-3	ISO20121 の運用
12 レガシー			
博覧会施設の公園への継承	博覧会施設の公園への継承	12-1-1	レガシー施設の選定
		12-1-2	レガシー施設の公園への継承
サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告
		12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告
		12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告

3.2 RACI マトリクス

以下では「3.1 アクション」で設定した各分野のアクションについて、当該アクションの「実行責任者 (Responsible)」、「説明責任者 (Accountable)」、「相談先 (Consulted)」、「情報提供先 (Informed)」を整理し、以下のとおり、RACI マトリクスとして提示する。

- 実行責任者 (Responsible)：割り当てられたアクションの責任を担い、実行する。
- 説明責任者 (Accountable)：アクションの完了を統括する責任を担い、アクションの進捗状況や完了状況などを必要に応じて情報提供先へ報告する。
- 相談先 (Consulted)：説明責任者からアクションの進捗状況や成果物などについて相談を受け、アクションの完了をサポートする役割を担う。
- 情報提供先 (Informed)：アクションの進捗状況の情報提供先となる。

ID	アクション	実行責任者	説明責任者	相談先	情報提供先
1 生物多様性					
KPI：1-1 生物多様性の保全					
1-1-1	生物多様性に配慮した会場計画の作成	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
1-1-2	計画の実施	協会、取引先	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
1-1-3	維持・管理	協会、取引先	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
2 水環境					
KPI：2-1 灌水消費量の削減					
2-1-1	予定使用水量の試算	協会	協会	有識者等	政府・自治体
2-1-2	節水施策の実施	協会、出展者等	協会	有識者等	政府・自治体
2-1-3	使用水量と削減水量の把握	協会	協会	有識者等	政府・自治体
3 脱炭素					
KPI：3-1 温室効果ガスのスコープごとの排出量					
3-1-1	温室効果ガスのスコープごとの排出量の試算	協会	協会	有識者等	政府・自治体
3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施	協会、取引先、 出展者等	協会	有識者等	政府・自治体
3-1-3	クレジットの購入によるカーボンニュートラル達成	協会	協会	有識者等	政府・自治体

ID	アクション	実行責任者	説明責任者	相談先	情報提供先
4 エネルギー					
KPI：4-1 建築のパッシブデザイン導入					
4-1-1	建築計画の策定	協会	協会	有識者等	政府・自治体
4-1-2	工事の実施	協会、取引先、 出展者等	協会、 出展者等	有識者等	政府・自治体
4-1-3	維持・管理	協会、取引先、 出展者等	協会、 出展者等	有識者等	政府・自治体
KPI：4-2 省エネ型の設備の導入					
4-2-1	エネルギー使用予定量の試算と削減計画の策定	協会	協会	有識者等	政府・自治体
4-2-2	エネルギー使用量削減施策の実施	協会、取引先、 出展者等	協会、 出展者等	有識者等	政府・自治体
4-2-3	エネルギー使用量・削減量の測定・公表	協会、 出展者等	協会	有識者等	政府・自治体
KPI：4-3 再生可能エネルギー電気の利用率					
4-3-1	再生可能エネルギー電気導入計画の策定	協会	協会	有識者等	政府・自治体
4-3-2	再生可能エネルギー電気の導入	協会	協会	有識者等	政府・自治体
5 公害対策					
KPI：5-1 工事に伴う周辺的生活環境に著しい影響を及ぼさない					
5-1-1	ガイドラインの策定・公表	協会	協会	有識者等、 自治体等	取引先、 政府・自治体、 地域社会
5-1-2	関係者への周知	協会	協会	有識者等	取引先、 政府・自治体、 地域社会
5-1-3	ガイドラインの運用・結果取りまとめの実施	協会、取引先	協会	有識者等	取引先、 政府・自治体、 地域社会
6 廃棄物と解体					
KPI：6-1 将来公園施設を展示施設として利活用					
6-1-1	将来公園施設を活用した展示施設設計	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	取引先、 政府・自治体
6-1-2	将来公園施設を活用した展示施設整備	協会、取引先	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
KPI：6-2 レンタル・リース品による仮設建築物整備					
6-2-1	レンタル・リース品による仮設建築物設計	協会、 出展者等	協会、 出展者等	有識者等	取引先、 政府・自治体
6-2-2	レンタル・リース品による仮設建築物調達	協会、取引先、 出展者等	協会、 出展者等	有識者等	政府・自治体
6-2-3	レンタル・リース品による仮設建築物整備	協会、取引先、 出展者等	協会、 出展者等	有識者等	政府・自治体
KPI：6-3 コンクリート塊のリサイクル率					
6-3-1	仮設の施設撤去時のコンクリート塊のリサイクル	協会、取引先	協会	有識者等	政府・自治体

ID	アクション	実行責任者	説明責任者	相談先	情報提供先
7 建設					
KPI：7-1 土地区画整理事業や将来公園施設のインフラ活用率					
7-1-1	土地区画整理事業や公園事業と連携したインフラ計画の策定	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	取引先、 政府・自治体
7-1-2	土地区画整理事業や公園事業と連携したインフラの整備	協会、取引先	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
KPI：7-2 生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討					
7-2-1	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討	協会	協会	有識者等	政府・自治体
KPI：7-3 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用					
7-3-1	調達コードの検討	協会	協会	有識者等、出展者等、取引先、 政府・自治体、 NPO・NGO	出展者等、 取引先、 政府・自治体、 NPO・NGO
7-3-2	調達コードの策定・公表	協会	協会	有識者等	出展者等、 取引先、 政府・自治体
7-3-3	調達コードの適切な運用	協会、 出展者等、 取引先	協会 出展者等、 取引先	有識者等	政府・自治体
8 デザイン・計画					
KPI：8-1 設計配慮指針の策定					
8-1-1	ガイドラインの策定・公表	協会	協会	有識者等	取引先、 政府・自治体
8-1-2	工事の実施	協会、取引先	協会	有識者等	政府・自治体
8-1-3	モニタリングの実施	協会	協会	有識者等	政府・自治体
9 交通・会場内移動					
KPI：9-1 公共交通等による会場アクセスの向上					
9-1-1	輸送実施計画の策定	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	取引先、 政府・自治体、
9-1-2	シャトルバスの確保・施設等の整備	協会、取引先	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
9-1-3	シャトルバスの運行管理、駐車場運営	協会、取引先	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体
KPI：9-2 来場者が安全・快適に移動できる動線計画の策定					
9-2-1	動線計画の策定	協会	協会	有識者等	取引先、 政府・自治体
9-2-2	動線の整備	協会、取引先	協会	有識者等	政府・自治体
9-2-3	動線計画の運用	協会、取引先	協会	有識者等	政府・自治体
KPI：9-3 ユニバーサルデザインガイドラインの策定					
9-3-1	ガイドラインの策定・公表	協会	協会	有識者等	取引先、 政府・自治体
9-3-2	工事の実施	協会、取引先	協会	有識者等	政府・自治体
9-3-3	モニタリングの実施	協会	協会	有識者等	政府・自治体

ID	アクション	実行責任者	説明責任者	相談先	情報提供先
10 海外からの参加者（外国政府・国際機関等）					
KPI：10-1 海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供					
10-1-1	公式参加者向けウェブページの開設および情報の掲載（英語版）	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	出展者等、 政府・自治体
10-1-2	各種規則・ガイドライン等のコンテンツの作成と定期的な更新	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	出展者等、 政府・自治体
10-1-3	関係者への周知	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	出展者等、 政府・自治体
11 サステナブルなイベント運営					
KPI：11-1 食品ロスの削減の推進					
11-1-1	ガイドラインの策定・公表	協会	協会	有識者等	出展者等、 政府・自治体
11-1-2	関係者への周知	協会	協会	有識者等	出展者等、 政府・自治体
11-1-3	計画の運用・結果取りまとめ	協会、 出展者等	協会	有識者等	政府・自治体
KPI：11-2 テーマに沿った、音・光のコントロール					
11-2-1	ガイドラインの策定・公表	協会	協会	有識者等	出展者等、 政府・自治体
11-2-2	関係者への周知	協会	協会	有識者等	出展者等、 政府・自治体
11-2-3	計画の運用・結果取りまとめ	協会、 出展者等	協会	有識者等	政府・自治体
KPI：11-3 ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築					
11-3-1	ESMSの導入に向けた検討	協会	協会	有識者等	出展者等、 取引先、 政府・自治体
11-3-2	ISO20121の審査機関からの認証取得	協会	協会	有識者等	政府・自治体
11-3-3	ISO20121の運用	協会	協会	有識者等	出展者等、 取引先、 政府・自治体
12 レガシー					
KPI：12-1 博覧会施設の公園への継承					
12-1-2	レガシー施設の公園への継承	協会	協会	有識者等、 政府・自治体	政府・自治体、 地域社会
KPI：12-2 サステナビリティレポートの策定・AIPH報告					
12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	協会	協会	有識者等	AIPH、 政府・自治体
12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	協会	協会	有識者等	AIPH、 政府・自治体
12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH報告	協会	協会	有識者等	AIPH、 政府・自治体

3.3 ガントチャート

「3.1 アクション」で設定した、各分野のアクションの実施スケジュールを記載したガントチャートを以下に示す。なお、実施計画においては、アクション単位でガントチャートの作成を行う。なお、各アクションや具体的な業務については、各担当が進捗管理を行っている。

アクション ID	アクション	2023	2024	2025	2026	2027	2028
		年度	年度	年度	年度	年度	年度
		★サステナビリティ戦略、実施計画策定					
		★会場整備工事の着工					
		★サステナビリティ教育計画、 コミュニケーション・エンゲージメント計画策定					
		★博覧会開催					
1 生物多様性							
KPI：1-1 生物多様性の保全							
1-1-1	生物多様性に配慮した会場計画の作成						
1-1-2	計画の実施						
1-1-3	維持・管理						
2 水環境							
KPI：2-1 灌水消費量の削減							
2-1-1	予定使用水量の試算						
2-1-2	節水施策の実施						
2-1-3	使用水量と削減水量の把握						
3 脱炭素							
KPI：3-1 温室効果ガスのスコープごとの排出量							
3-1-1	温室効果ガスのスコープごとの排出量の試算						
3-1-2	温室効果ガスの削減対策の実施						
3-1-3	クレジットの購入によるカーボンニュートラル達成						
4 エネルギー							
KPI：4-1 建築のパッシブデザイン導入							
4-1-1	建築計画の策定						
4-1-2	工事の実施						
4-1-3	維持・管理						
KPI：4-2 省エネ型の設備の導入							
4-2-1	エネルギー使用予定量の試算と削減計画の策定						
4-2-2	エネルギー使用量削減施策の実施						
4-2-3	エネルギー使用量・削減量の測定・公表						
KPI：4-3 再生可能エネルギー電気の利用率							
4-3-1	再生可能エネルギー電気導入計画の策定						
4-3-2	再生可能エネルギー電気の導入						
5 公害対策							
KPI：5-1 工事に伴う周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさない							
5-1-1	ガイドラインの策定・公表						
5-1-2	関係者への周知						
5-1-3	ガイドラインの運用・結果取りまとめの実施						

アクション ID	アクション	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
		年度	年度	年度	年度	年度	年度	
		★サステナビリティ戦略、実施計画策定						
		★会場整備工事の着工						
		★サステナビリティ教育計画、 コミュニケーション・エンゲージメント計画策定						
★博覧会開催								
6 廃棄物と解体								
KPI：6-1 将来公園施設を展示施設として利活用								
6-1-1	将来公園施設を活用した展示施設設計							
6-1-2	将来公園施設を活用した展示施設整備							
KPI：6-2 レンタル・リース品による仮設建築物整備								
6-2-1	レンタル・リース品による仮設建築物設計							
6-2-2	レンタル・リース品による仮設建築物調達							
6-2-3	レンタル・リース品による仮設建築物整備							
KPI：6-3 コンクリート塊のリサイクル率								
6-3-1	仮設の施設撤去時のコンクリート塊のリサイクル							
7 建設								
KPI：7-1 土地区画整理事業や将来公園施設のインフラ活用率								
7-1-1	土地区画整理事業や公園事業と連携したインフラ計画の策定							
7-1-2	土地区画整理事業や公園事業と連携したインフラの整備							
KPI：7-2 生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討								
7-2-1	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討							
KPI：7-3 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用								
7-3-1	調達コードの検討							
7-3-2	調達コードの策定・公表							
7-3-3	調達コードの適切な運用							
8 デザイン・計画								
KPI：8-1 設計配慮指針の策定								
8-1-1	ガイドラインの策定・公表							
8-1-2	工事の実施							
8-1-3	モニタリングの実施							

アクション ID	アクション	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
		年度	年度	年度	年度	年度	年度	
		★サステナビリティ戦略、実施計画策定						
		★会場整備工事の着工						
		★サステナビリティ教育計画、 コミュニケーション・エンゲージメント計画策定						
★博覧会開催								
9 交通・会場内移動								
KPI：9-1 公共交通等による会場アクセスの向上								
9-1-1	輸送実施計画の策定							
9-1-2	シャトルバスの確保・施設等の整備							
9-1-3	シャトルバスの運行管理、駐車場運営							
KPI：9-2 来場者が安全・快適に移動できる動線計画の策定								
9-2-1	動線計画の策定							
9-2-2	動線の整備							
9-2-3	動線計画の運用							
KPI：9-3 ユニバーサルデザインガイドラインの策定								
9-3-1	ガイドラインの策定・公表							
9-3-2	工事の実施							
9-3-3	モニタリングの実施							
10 海外からの参加者（外国政府・国際機関等）								
KPI：10-1 海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供								
10-1-1	公式参加者向けウェブページの開設および情報の掲載（英語版）							
10-1-2	各種規則・ガイドライン等のコンテンツの作成と定期的な更新							
10-1-3	関係者への周知							
11 サステナブルなイベント運営								
KPI：11-1 食品ロスの削減の推進								
11-1-1	ガイドラインの策定・公表							
11-1-2	関係者への周知							
11-1-3	計画の運用・結果取りまとめ							
KPI：11-2 テーマに沿った、音・光のコントロール								
11-2-1	ガイドラインの策定・公表							
11-2-2	関係者への周知							
11-2-3	計画の運用・結果取りまとめ							
KPI：11-3 ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築								
11-3-1	ESMS の導入に向けた検討							
11-3-2	ISO20121 の審査機関からの認証取得							
11-3-3	ISO20121 の運用							

アクション ID	アクション	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	
		★サステナビリティ戦略、実施計画策定						
		★会場整備工事の着工						
		★サステナビリティ教育計画、 コミュニケーション・エンゲージメント計画策定						
		★博覧会開催						
12 レガシー								
KPI：12-1 博覧会施設の公園への継承								
12-1-1	レガシー施設の選定							
12-1-2	レガシー施設の公園への継承							
KPI：12-2 サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告								
12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告							
12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告							
12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告							

4 予算

本園芸博の費用は、「会場建設費」及び「運営費」に区分される。

会場建設費は、320 億円を見込んでおり、国、地方公共団体、民間がそれぞれ3分の1ずつ負担する。

運営費は、360 億円を見込み、財源は、入場券売上、営業施設（飲食・物販事業者）からのロイヤリティ等を充てる。

なお、サステナビリティ戦略に記載した目的や目標を実現するための予算については、資金計画の範囲内で対応する。

表 資金計画の概要

(単位：億円)

収入	支出
国 地方公共団体 民間	会場建設費
計 320	計 320
入場料 営業権利金 ほか	運営費
計 360	計 360

5 進捗管理と評価

本章では、サステナビリティ戦略で設定した KPI の進捗状況を管理するための進捗管理方法や、2027 年の本園芸博の開催を見据え、各目標の中間目標値等を設定する。また、KPI は原則として毎年度、進捗管理を行い、サステナビリティレポートに結果を記載する。

以下に各 KPI のデータ出典、データ収集頻度、データ管理者を一覧で示す。

ID	KPI	データ 出典	データ 収集頻度	データ 管理者
0 目的				
0-1	計画地周辺における自然環境との連続性を持った緑のネットワークの構築	植栽本数	1 回/年度	協会
0-2	参加者（地域連携や ICT 活用などの多様な参加形態を含む）	・チケット販売実績 ・ICT 活用や地域連携などの多様な参加形態者数	1 回/年度 (2025 年度 以降)	協会
0-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	調達コードの運用状況	1 回/年度	協会
1 生物多様性				
1-1	生物多様性の保全	工事の進捗報告	1 回/年度	協会
2 水環境				
2-1	漏水消費量の削減	工事の進捗報告	1 回/年度 (2027 年開催期間)	協会
3 脱炭素				
3-1	温室効果ガスのスコープごとの排出量	温室効果ガス排出量の試算	1 回/年度	協会
4 エネルギー				
4-1	建築のパッシブデザイン導入	工事の進捗報告	1 回/年度	協会
4-2	省エネ型の設備の導入	工事の進捗報告	1 回/年度	協会
4-3	再生可能エネルギー電気の利用率	再生可能エネルギー電気計画及び当計画に基づく進捗報告	1 回/年度	協会
5 公害対策				
5-1	工事に伴う周辺の生活環境に著しい影響を及ぼさない	工事の進捗報告	1 回/年度	協会
6 廃棄物と解体				
6-1	将来公園施設を展示施設として利活用	工事の進捗報告	1 回/年度	協会
6-2	レンタル・リース品による仮設建築物整備	工事の進捗報告	1 回/年度	協会
6-3	コンクリート塊のリサイクル率	工事の進捗報告	1 回/年度	協会

ID	KPI	データ 出典	データ 収集頻度	データ 管理者
7 建設				
7-1	土地区画整理事業や将来公園施設のインフラ活用率	設計や工事の進捗報告	1回/年度	協会
7-2	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討	生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討	1回/年度	協会
7-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	調達コードの対応状況	1回/年度	協会
8 デザイン・計画				
8-1	設計配慮指針の策定	会場計画の進捗報告	1回/年度	協会
9 交通・会場内移動				
9-1	公共交通等による会場アクセスの向上	シャトルバス運行実績	1回/年度	協会
9-2	来場者が安全・快適に移動できる動線計画の策定	会場計画の進捗報告	1回/年度	協会
9-3	ユニバーサルデザインガイドラインの策定・公表	会場計画の進捗報告	1回/年度	協会
10 海外からの参加者（外国政府・国際機関等）				
10-1	海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	公式参加者向けウェブページ等	1回/年度	協会
11 サステナブルなイベント運営				
11-1	食品ロスの削減の推進 ※一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店	食品ロスの削減の検討状況	1回/年度	協会
11-2	テーマに沿った、音・光のコントロール ※一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店、催事参加	テーマに沿った、音・光のコントロールの検討	1回/年度	協会
11-3	ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	ISO20121 認証取得・運用実績	1回/年度	協会
12 レガシー				
12-1	博覧会施設の公園への継承	会場計画、工事の進捗報告	1回/年度	協会
12-2	サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告実績	1回/年度	協会

5.1 成果の進捗管理

以下に、サステナビリティ戦略で設定した各 KPI の基準値、2024 年度（1 年度目）、2025 年度（2 年度目）、2026 年度（3 年度目）の中間目標値、最終目標値を示す。

ID	KPI	基準値 【設定年度】	2024 年度の 中間目標値	2025 年度の 中間目標値	2026 年度の 中間目標値	最終目標値 【達成年度】
0 目的						
0-1	計画地周辺における自然環境との連続性を持った緑のネットワークの構築	なし 【2024 年度】	植栽設計	植栽整備	植栽整備	計画的な植栽整備 【2026 年度】
0-2	参加者数（地域連携や ICT 活用などの多様な参加形態を含む）	2027 年国際園芸博覧会協会基本計画の策定 【2022 年度】	広報 PR 活動を通じた本園芸博の認知拡大・機運醸成	本園芸博で展開される展示園やテーマ館、様々な主体による出展等のコンテンツの発信を通じて、本園芸博での取り組みの浸透を図り、来場意欲とチケット販売につなげる	チケットプロモーションを通じて、本園芸博での取り組みの浸透を図り、来場意欲とチケット販売につなげる	1,500 万人 【2027 年度】
0-3	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用	調達コードの策定 【2023 年度】	調達コードの適切な運用	調達コードの適切な運用	調達コードの適切な運用	調達コードの適切な運用 【2027 年度】
1 生物多様性						
1-1	生物多様性の保全	なし 【2024 年度】	生物多様性の目標達成に向けた会場設計	生物多様性の目標達成に向けた会場整備	生物多様性の目標達成に向けた会場整備	注目すべき種の動植物相及びその生息・生育環境への影響、地域の生物多様性に係る影響を最小限に留める 【2027 年度】
2 水環境						
2-1	灌水消費量の削減	なし 【2024 年度】	自動灌水装置の設計	自動灌水装置の整備	自動灌水装置の整備	自動灌水エリアにおいて、人力灌水(20L/m ² /日)から点滴灌水(10L/m ² /日)へ削減 【2027 年度】

ID	KPI	基準値 【設定年度】	2024年度の 中間目標値	2025年度の 中間目標値	2026年度の 中間目標値	最終目標値 【達成年度】
3 脱炭素						
3-1	温室効果ガスのス コープごとの排出 量	・ Scope1 BAU 値 ●t-CO2 ・ Scope2 BAU 値 ●t-CO2 ・ Scope3 BAU 値 ●t-CO2 【2023年度】	温室効果ガスの 削減対策の実施	温室効果ガスの 削減対策の実施	温室効果ガスの 削減対策の実施	排出対策後の排 出量 ・ Scope1 ●t-CO2 ・ Scope2 ●t-CO2 ・ Scope3 ●t-CO2 【2027年度】
4 エネルギー						
4-1	建築のバッシブデ ザイン導入	なし 【2023年度】	自然環境条件に 沿った建築設計	自然環境条件に 沿った建築設計	自然環境条件に 沿った建築整備	自然環境条件に 沿った建築整備 【2026年度】
4-2	省エネ型の設備の 導入	省エネ型の設備 の導入検討 【2024年度】	省エネ型の設備 の導入検討	省エネ型の設備 の設計	省エネ型の設備 の整備	省エネ型の設備 の整備 【2027年度】
4-3	再生可能エネルギ ー電気の利用率	再生可能エネル ギー電気の導入 検討 【2024年度】	再生可能エネル ギー電気の導入 検討	再生可能エネル ギー電気の導入 検討	再生可能エネル ギー電気の導入 検討	100% 【2027年度】
5 公害対策						
5-1	工事に伴う周辺の 生活環境に著しい 影響を及ぼさない	周辺の生活環境 に著しい影響を 及ぼさない 【2023年度】	工事に伴う周辺 の生活環境に著 しい影響を及ぼ さない	工事に伴う周辺 の生活環境に著 しい影響を及ぼ さない	工事に伴う周辺 の生活環境に著 しい影響を及ぼ さない	周辺の生活環境 に著しい影響を 及ぼさない 【2028年度】
6 廃棄物と解体						
6-1	将来公園施設を展 示施設として利活 用	なし 【2023年度】	将来公園施設を 活用した展示施 設設計	将来公園施設を 活用した展示施 設設計	将来公園施設を 活用した展示施 設整備	将来公園施設を 活用した展示施 設整備 【2026年度】
6-2	レンタル・リース 品による仮設建築 物整備	なし 【2023年度】	レンタル・リー ス品による仮設 建築物設計	レンタル・リー ス品による仮設 建築物調達	レンタル・リー ス品による仮設 建築物整備	レンタル・リー ス品による仮設 建築物整備 【2027年度】
6-3	コンクリート塊の リサイクル率	なし 【2023年度】	100%	100%	100%	100% 【2028年度】

ID	KPI	基準値 【設定年度】	2024年度の 中間目標値	2025年度の 中間目標値	2026年度の 中間目標値	最終目標値 【達成年度】
7 建設						
7-1	土地区画整理事業 や将来公園施設の インフラ活用率	なし 【2023年度】	なし	なし	なし	100%（電気、ガ ス、通信、上下水 道） 【2027年度】
7-2	生態系に配慮した 植物の維持管理手 法の検討	生態系に配慮 した植物の維 持管理手法の 検討 【2023年度】	生態系に配慮 した植物の維 持管理手法の 検討	生態系に配慮 した植物の維 持管理手法の 策定	生態系に配慮 した植物の維 持管理の準備	生態系に配慮した 植物の維持管理の 実施 【2027年度】
7-3	持続可能性に配慮 した調達コードの 策定・運用	調達コードの 策定 【2023年度】	調達コードの 適切な運用	調達コードの 適切な運用	調達コードの 適切な運用	調達コードの適切 な運用 【2027年度】
8 デザイン・計画						
8-1	設計配慮指針の策 定	なし 【2023年度】	設計配慮指針 の検討	設計配慮指針 の策定	なし	設計配慮指針の策 定 【2025年度】
9 交通・会場内移動						
9-1	公共交通等による 会場アクセスの向 上	なし【2023年 度】	輸送実施計画 の策定	輸送実施計画 の随時更新、施 設整備等	運営準備、施設 整備等	近隣4駅からシャ トルバスを運行、 会場及び会場外駐 車場の整備、運営 【2027年度】
9-2	来場者が安全・快 適に移動できる動 線計画の策定	なし 【2023年度】	園路実施設計	園路整備	園路整備	・来場者の主動線 は、会場全体を 回遊する形状に 配置 ・西側のループと 東側のループに より、各コンテ ンツへの効率的 なアクセスを実 現 【2026年度】
9-3	ユニバーサルデザ インガイドライン の策定	なし 【2023年度】	ユニバーサル デザインガイ ドラインの策 定	なし	なし	ユニバーサルサー ビスの提供に関す るガイドラインを 策定 【2024年度】

ID	KPI	基準値 【設定年度】	2024年度の 中間目標値	2025年度の 中間目標値	2026年度の 中間目標値	最終目標値 【達成年度】
10 海外からの参加者（外国政府・国際機関等）						
10-1	海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	公式参加者向けウェブページの開設（英語版） 【2022年度】	承認済の各種特別規則及びそれに付随するガイドライン等の提示	承認済の各種特別規則及びそれに付随するガイドライン等の提示	承認済の各種特別規則及びそれに付随するガイドライン等の提示	公式参加者向けウェブページ等を用いた情報提供を行い、本園芸博のサステナビリティ戦略・実施計画や、それらに則った出展に係る各種指標、環境配慮等に係る規定について、展示・出展に反映してもらえよう、公式参加者へ周知 【2027年度】
11 サステナブルなイベント運営						
11-1	食品ロスの削減の推進 ※公式参加者、一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店	食品ロスの削減の検討 【2023年度】	食品ロスの削減の検討	食品ロスの削減の検討	食品ロスの削減の検討	・無理なく食べられる量やサイズのメニューの提供 ・来場者に呼びかけ 【2027年度】
11-2	テーマに沿った、音・光のコントロール ※公式参加者、一般営業出店、Village 出展、テーマ営業出店、催事参加	テーマに沿った、音・光のコントロールの検討 【2023年度】	テーマに沿った、音・光のコントロールの検討	テーマに沿った、音・光のコントロールの検討	テーマに沿った、音・光のコントロールの検討	テーマに沿った、音・光のコントロール 【2027年度】
11-3	ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築	ESMSの導入に向けた検討 【2023年度】	ESMSの導入に向けた検討	ISO20121の審査申請に向けた検討	ISO20121の審査機関からの認証取得・運用	ISO20121の認証取得・運用 【2027年度】

ID	KPI	基準値 【設定年度】	2024年度の 中間目標値	2025年度の 中間目標値	2026年度の 中間目標値	最終目標値 【達成年度】
12 レガシー						
12-1	博覧会施設の公園への継承	なし	将来公園計画と連携した施設設計	将来公園計画と連携した施設整備	将来公園計画と連携した施設整備	博覧会施設の公園への継承 【2027年度】
12-2	サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	サステナビリティレポートの検討 【2023年度】	サステナビリティレポートの検討	サステナビリティレポートの検討	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイベント・サステナビリティレポートのAIPH報告 ・ポストイベント・サステナビリティレポートのAIPH報告 ・サステナビリティ及びレガシーレポートのAIPH報告 【2030年度】